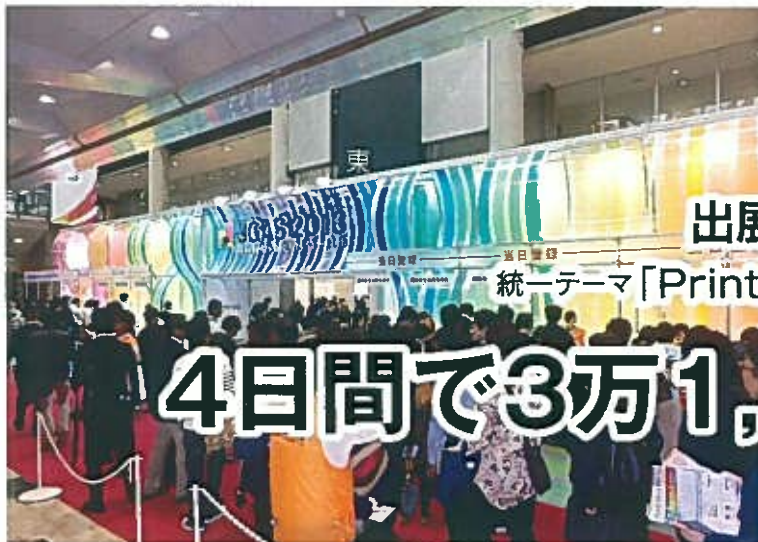


JGAS2013

Japan Graphic Arts Show 2013



出展規模は、229社・1,364小間

統一テーマ「Print+a プリントメディアの新たな挑戦!」

4日間でも3万1,237名が来場

印刷機材団体協議会(宮腰巖会長)主催による国際総合印刷機材展示会「JGAS2013」が10月2日から5日までの4日間、東京ビッグサイトを会場に開催され、多くの来場者を集客し、無事閉幕した。会期4日間で3万1,237名が来場し、盛況を呈した。

今回で4回目となるJGAS2013は「Print+a プリントメディアの新たな挑戦!」をテーマに出展社数229社、1,364小間の規模で開催。東1・2・3ホールは展示スペースとして、プリプレス、印刷機械、ポストプレス、紙工機械に関する新製品や最新技術、サービス等を一堂に展示。また東6ホールでは、従来の印刷機材展に留まらず、様々な+aを実施。具体的には、ビジネスに直結する講演・セミナーなどを開催する

「+Session」、展示会場の見所を解説を交え見学する「+Tour」、多彩なテーマゾーンとして開設された「+Park」、会期中にタイムリーに様々な情報を発信する「+Live Studio」等、これまでのJGASやIGASにはない規模で多種多様な企画が展開された。また印刷関連諸団体の主催による様々なイベントも会期中に開催された。

開催初日の2日午前9時30分からは、オープニングセレモニーが行われ、その冒頭、挨拶に立った宮腰会長は「印刷業界は厳しい経済状況とIT技術の革新および電子メディアの台頭など、激しい環境変化の波にさらされている。このような状況のなか、フレームワークにとらわれない新たな付加価値を創出していく必要がある」と今回のテーマとして設定した「Print+a プリント



▲宮腰会長

メディアの新たな挑戦!」の趣旨について説明。また宮腰会長は「JGAS2013は、日本国内だけでなく、アジアを含めた海外からも高い関心が寄せられており、世界の印刷技術をリードする日本として、その期待に応えるべく全力を挙げる所存である」と国際総合印刷機材展として開催することを強調するとともに、同展示会の成功に向け、あらためて協力を呼びかけた。

Member introduction



「ポストプレス工程の付加価値創造」提唱

ケイズカンパニー株式会社

代表取締役 高橋 龍男 氏

同社の創業は1995年4月。イリス商会で十数年務めた高橋社長が独立する形で立ち上げた製本関連機器の専門会社である。

当初は台湾製の小型断裁機の輸入販売からスタートしたそうだが、その後もレンツやナーゲルといった小型製本機器の取り扱いラインナップを拡充し、いまでは主に欧米メーカーのポストプレス機器から印刷周辺機器にいたる幅広い国内代理販売活動を展開している。hhs、MBO、ハイマン、ポーレンベルグ、ボグラマ、テクニフォルドなどが主な取り扱いメーカーだ。これらの最新鋭機を国内に紹介することで、一貫して「ポストプレス

工程の付加価値創造」を提唱し、ユーザーに「夢、楽しみ、驚き、喜び」を提供、企業価値を高めてきた。

そして、同社の大きなターニングポイントとなったのが、デジタルフィニッシング分野のリーディングカンパニーとして知られるスイス・フンケラーとの代理店契約締結だ(2012年)。同社では現在、このフンケラーのフィニッシャーをはじめ、ボグラマのロータリーダイカッター、さらにはイメージングソリューションズ社のブックブロック製本システムなど、デジタル印刷の多彩な後加工ソリューションをラインナップし、さきごろ東京

連絡先
〒530-0043
大阪市北区天満4-14-9
電話 06-4800-7277 FAX 06-4800-7288
e-mail tt@ks-company.co.jp
URL <http://www.ks-company.co.jp/>

ビッグサイトで開催されたJGAS2013においても、その先進性をアピールした。

さらに直近では、ドイツ・BDT社のトルネードフィーダーヘッドの取り扱いも開始。これは、装置内に竜巻状態を形成することで紙を吸い上げ、送り出すため、薄紙・厚紙ともに安定した給紙を実現するもの。インディゴデジタル印刷機にも標準搭載されているフィーダーで、すでに国内でも検査装置や折り機のフィーダー部として導入が進んでいる。

高橋社長は、昭和36年11月30日生まれれの52歳。ゴルフの腕前は多くの知るところである。